

米穀流通2040ビジョン【概要版】

全国米穀販売事業共済協同組合

2024年3月

- 全米販はこのほど、約20年後を見据え「米穀流通2040ビジョン」を策定しました。
- 2022年12月9日に開かれた食料・農業・農村政策審議会の第5回基本法検証部会に提出された資料が、ビジョン策定の契機となりました。このなかで、2020年704万tの主食用米需要量が、20年後の2040年には493万tにまで減少すると試算しています。
- 需要量が500万tを下回る2040年の米穀流通とは、どのような状態か。それは容認できる姿か否か。容認しがたい場合には対策を講じる必要があるので、判断の手助けとして未来予想図／ビジョンを創ることにしました。
- (株)日本総合研究所とタッグを組み、2023年7月から検討を開始。全米販組合員会社の若手社員によるワーキンググループも参画し、各方面へのヒアリングなども交えて、検討を深めて参りました。
- 当ビジョンは、現状を看過した場合に予想される最悪の予想図である「現実的シナリオ」と、魅力的な米穀流通の姿を思い描いた「野心的シナリオ」との、二本立てで構成しています。
- 現実的シナリオ……2040年の国内需要量375万t（2020年比▲41%）、生産量363万t（同▲50%）
 - ※ 2030年代には国内需要量を国産だけでは賄いきれなくなる可能性があり、2040年の米穀流通は営業赤字に転落。
- 野心的シナリオ……①需要拡大（多角的な米需要の創出や輸出などによる市場の育成と拡大）、②生産支援（担い手の確保、出口の開拓、効率化支援など）、③流通改革（持続可能な価格形成、水平／垂直方向連携など関係者の役割再定義など）といった「打ち手」を実現することで、2040年の米国内需要量722万t（2020年比+13.4%）、米穀市場規模5.97兆円（同+18.0%）を想像。
- 野心的シナリオが描く情景は、米穀流通業界が魅力的な産業となるばかりか、国内食料安全保障の強化、米食文化の継承・普及・開拓、ひいては世界人口増加に伴う食料供給による国際貢献などの社会貢献を果たしていくでしょう。

本件の問合せ先：全米販（全国米穀販売事業共済協同組合）組織戦略室

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町15-15 食糧会館

E-mail: soshiki-senryaku@zenbeihan.com Tel:03-4334-2185

現実的シナリオ（最悪の予想図）①

（本体P4～6）

全国米穀販売事業共済協同組合

2024年3月

コメ需要



2040年におけるコメの国内需要は**375万 t** (2020年比**41%減**)

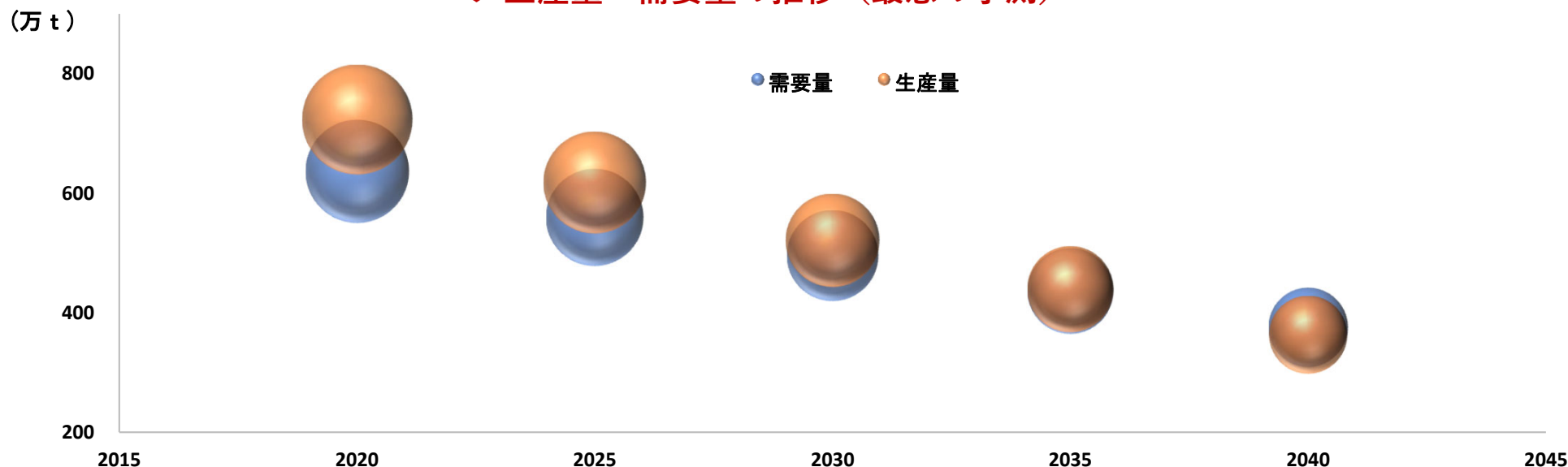
コメ生産



2040年におけるコメ生産者は**30万人程度** (2020年比**65%減**)

2030年代に **国内需要量を国産だけでは賄いきれなくなる可能性あり**

コメ生産量・需要量の推移（最悪の予測）



現実的シナリオ（最悪の予想図）②

(本体P7)

全国米穀販売事業共済協同組合

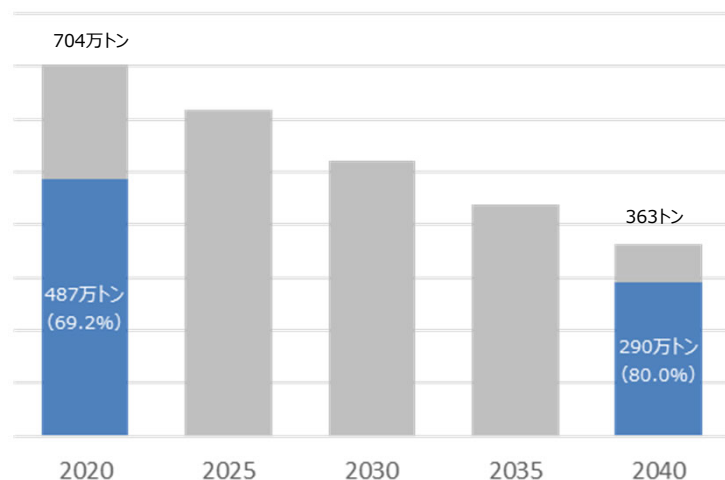
2024年3月

コメ流通

需要・生産量の減少に伴う流通量の減少により、米穀流通は**営業赤字に陥る**

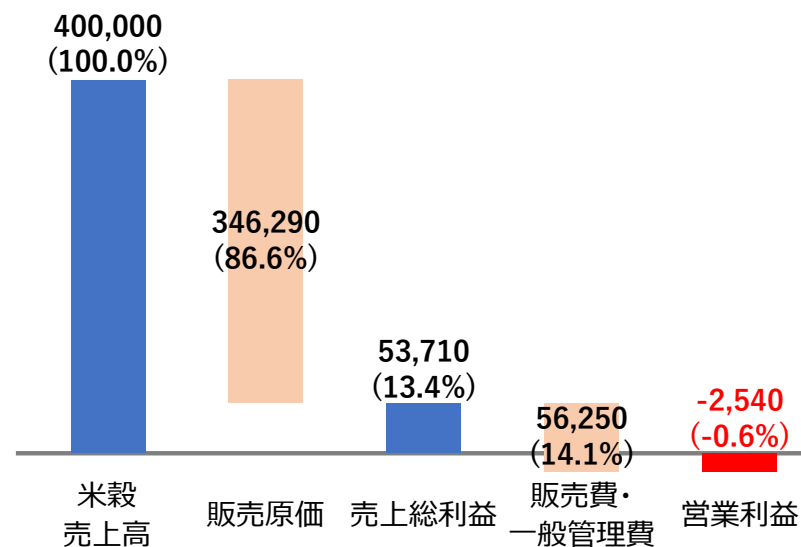
国内コメ流通量と米卸取扱量の予測

(2020~2040年)



米卸営業利益構造の予測

(2040年、単位：百万円)



なぜ「野心的シナリオ」(魅力的な米穀流通)か

全国米穀販売事業共済協同組合
(本体P9)
2024年3月

- 米穀流通・産業の維持・発展に向け、2040年の米穀流通・産業が**魅力的であり、新たな人材の獲得や新規技術の開発・投資の活性化を**、より引き出すための**野心的(魅力的)な姿を目指すことが必要**。
- 野心的なシナリオとは……
 - コメ需要の拡大**: 「一人あたり消費量・額の増加」や「海外需要の拡大」に対して積極的な打ち手の実施
 - コメ生産の支援**: 「担い手の確保」、「出口の開拓」、「効率化支援」等、一層の支援を通じた生産量の確保
 - コメ流通の改革**: 米穀卸間による「無益な足の引っ張り合いの回避」や「役割再定義」等に伴う構造改革
- 野心的なシナリオの実現を通じて、**国内食料安全保障の強化、米食文化の継承・普及・開拓、食料供給での国際貢献**など社会に貢献する。

なぜ、この打ち手が必要か

どのような効果が見込めるか

コメ需要の拡大

- 国内人口の減少・高齢化は避けようが無いなかで、コメ需要を維持・拡大するためには、「消費機会を増やす」及び「新たな胃袋を捕まえる」に他ならない。
- また、安定的に安価なコメを供給する一方で、コメの魅力を引き出し、伝達することによる「高単価な市場の形成」も同時に行う必要。

- 世界人口は増加が予測され、食料需要も増加が見込まれる。海外の胃袋を捕まえることは米穀売上高の増加に加え、食料供給による国際貢献にも繋がる。
- 生産量の維持に欠かせない要素は「出口の確保」。需要の増加はコメ生産者の確保に繋がる。

コメ生産の支援

- コメ生産が減ることは、取扱量に直結し、設備の稼働率低下や物流効率の低下に繋がり、採算性の悪化が避けられない。
- コメ生産者の減少要因は「儲からない」が最たるもの。米穀卸は、生産者の負担を和らげ、時にはリスクを取り、「コメ生産は儲かるもの」へと繋げていく必要がある。

- 拡大を目指す需要に応じてだけでなく、コメ生産者が儲かるために米穀卸が必要不可欠な関係を構築することは、米穀卸経由率の増加に直結。
- コメ生産の維持・発展は平時・不測時の食料安全保障に欠かせない要素。この打ち手は社会貢献度も高い。

コメ流通の改革

- 米穀卸間での低価格競争や精米工場の稼働率低下など、流通過程において採算性の低下を導く要因が蔓延している。
- 米穀卸間で「役割を再定義する」、「協力し合う点、競争する点」を明確にする流通構造の改革が米穀流通インフラの維持には何より重要。

- 米穀卸流通がより効率的になることは米穀産業全体の収益性強化に結び付くもの。
- 米穀卸自体が(適正に)儲かる産業となる⇒魅力的な人材の確保や更なる機能強化に向けた投資の呼び込みなど、持続可能な産業としての基盤強化へ。

野心的シナリオに向けた打ち手

(本体P10)

全国米穀販売事業共済協同組合

2024年3月

| | | |
|---------|--------------------------------|--|
| コメ需要の拡大 | 輸出推進支援 | <ul style="list-style-type: none"> ● 米穀卸各社が行っていた海外現地マーケティングや販路獲得の機能を集約。また、輸出に関するハードルの緩和などを通じた輸出推進の活性化。 |
| | コメ市場の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ● 「安定的に安い」価値のみならず、コメの魅力を言語化し、それらを伝達できる人材の育成・品種の改良を通じた「高価格帯」市場の形成。 |
| コメ生産の支援 | 産地支援の強化 (生産力の確保) | <ul style="list-style-type: none"> ● 短期・長期的なコメ生産者の確保・育成支援や「出口の確保」を中心としたコメ生産者のリスク低減策、スマート農業の推進に向けた導入スキーム構築などの包括的な産地支援。 |
| コメ流通の改革 | 持続可能な コメ価格形成 | <ul style="list-style-type: none"> ● 流通経費の実態調査に基づくコメの適正価格化。生産～流通～安定的な消費が持続的に可能となる「コメ産業全体にとって」適正な価格の形成。 |
| | 生産や研究開発・デジタル活用、 広報・MD戦略の共同化 | <ul style="list-style-type: none"> ● 米穀卸1社で実施されていた意欲的な研究開発やデジタル活用、広報・MD戦略、精米工場の利用などを共同出資・利用することで、事業の規模拡大や稼働率の向上など、各種取組み効果を拡大。 |
| | 米卸企業間の役割再定義 | <ul style="list-style-type: none"> ● 米穀卸同士の「無益な足の引っ張り合い」の回避や役割の明確化、集中的な投資による機能の強化推進。 |
| | 生産から消費までの垂直連携強化 | <ul style="list-style-type: none"> ● 生産～流通～実需者・消費者の連携強化により、最終的な品質確保に向けた機能強化を全体で維持することで、持続的・安定的な調達可能性の確保。 |

野心的シナリオ（魅力的な米穀流通）①

（本体P11～12）

全国米穀販売事業共済協同組合

2024年3月

コメ需要



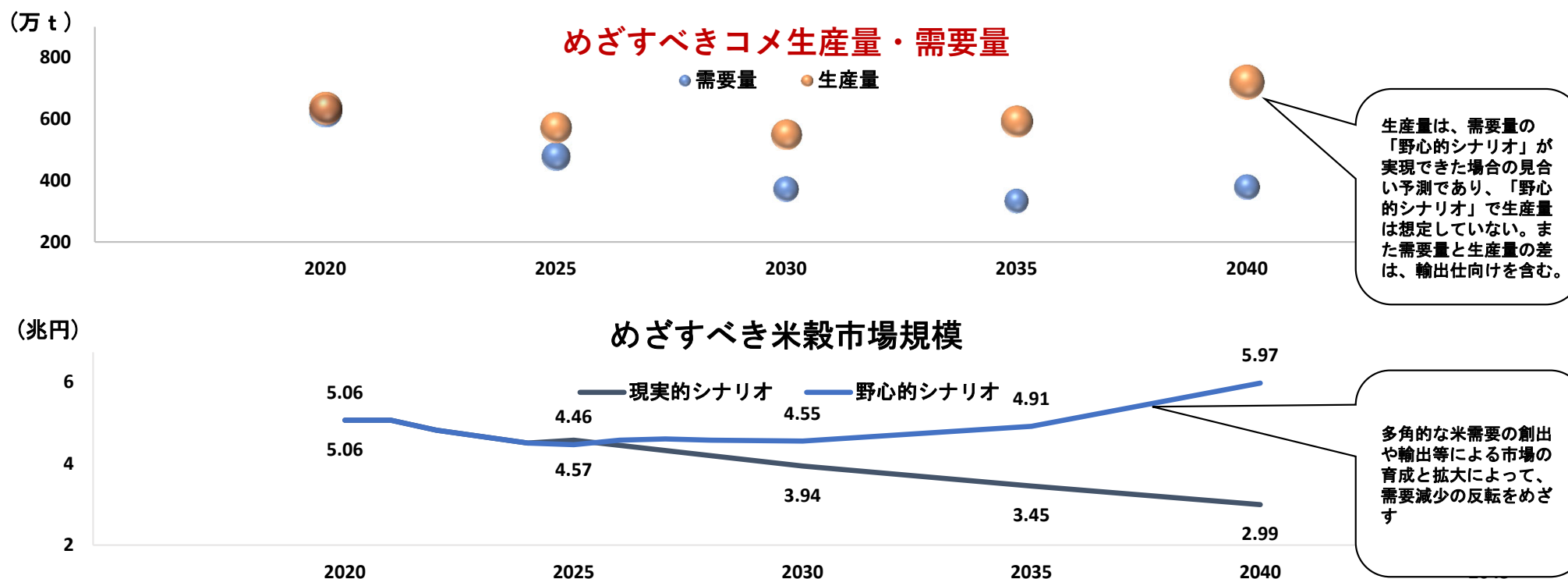
めざすべき2040年におけるコメの国内需要は **722万 t**（2020年比**+13.4%**、含輸出）

コメ生産



上記に見合って生産量が増えていくとするなら、生産量は **700万 t 超** を回復する勘定

めざすべき2040年の米穀市場規模は **5.97兆円**（2020年比**+18.0%**）



野心的シナリオ（魅力的な米穀流通）②

（本体P13~14）

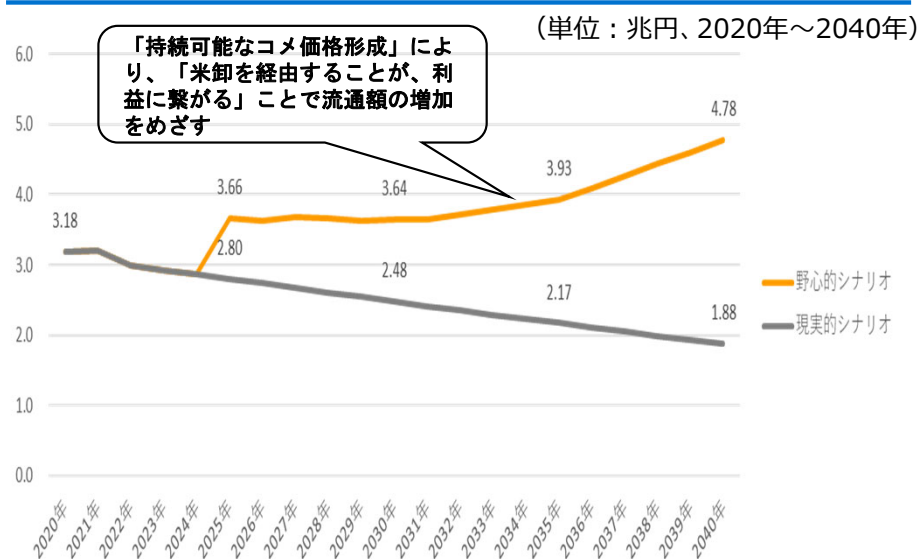
全国米穀販売事業共済協同組合

2024年3月

コメ流通

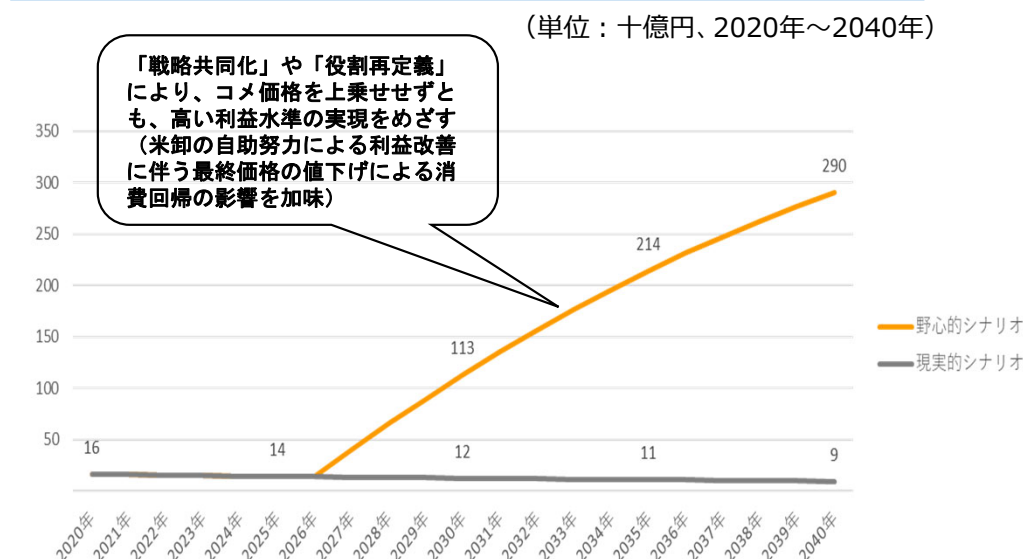
2025年を境に反転、2040年は、米穀卸流通額 **4.78兆円** 米穀卸利益額 **2,900億円**をめざす

めざすべき米穀卸流通額



入口の「産地支援」だけでなく、「輸出推進」、「コメ市場の育成」などの出口開発により、米穀流通における米卸のプレゼンスを向上

めざすべき米穀卸利益額



持続的なコメ価格形成を通じて、流通経費の実態からみて、持続可能な価格適正化を実現することにより、利益額の改善をめざす（最終価格の値上げによる一時的なコメ離れの影響も加味）

野心的シナリオに向けた 米穀流通業界・全米販の選択肢

全国米穀販売事業共済協同組合

(本体P16~22)

2024年3月

コメ需要の拡大

輸出推進支援

- 輸出に関するハードルの抽出、規制緩和に向けた働きかけ
（個社単位ではなく）全米販＋全米輸としての連携先確保
- 現地マーケット情報入手・販路獲得に向けた商談会・品評会等の一元化
- 運用ルールの標準化・統一化

コメ市場の育成

- コメの特徴（品種や食味、弾力、その他）を言語化し、それを伝える体制構築
- 各種食材との相性や下準備の在り方等を研究
- 人材育成に向けた連携先を探索

コメ生産の支援

産地支援の強化（生産力の確保）

- 生産者における流通に対するニーズの一元把握
- 国内生産量の確保に向けた労働力獲得支援の一元化（就労マッチング機能）
- スマート農業に対する知見集積体制の構築（テック側の動向把握、生産側のニーズ把握）

水平・垂直方向への連携強化または団体（業界）協働

↑
全米販の業務見直し・組織改革

↑
全米販の理念（役割）見直し、中期計画の策定

コメ流通の改革

持続可能なコメ価格形成

- 流通価格の実態を調査
- 実態に基づく、価格の転嫁が必要な実態を明確化
- 流通を合理化するため業界がやるべきことも併せて発信
- 流通価格転嫁のためのスキームを検討

生産や研究開発、広報・MD戦略の共同化

- 精米工場の共同化に向けたスキームの具体化
- 共同研究に向けた体制の検討
- 共通デジタル基盤の構築に向けた検討
- コメ消費のポジティブイメージ発信に向けた戦略的検討
- 消費者のライフスタイル補足によるコメに関する想いの抽出

米卸間の役割再定義

- 上記（精米工場の共同化）に基づき、参画スキーム間で役割を再定義
- 参画企業間で各社の得意領域・リソース等を勘案しながら、役割を定義
- 役割に基づく機能を再編（初期はリソースの共有化で対応）

生産から消費までの垂直連携強化

- 実需者（量販・外食）、消費者のコメに関する問題認識やニーズの把握
- 実需者・消費者に対し生産～流通の危機的状況や必要な取組み等を発信
- 実需者・消費者ニーズに合った商品・サービスの開発に対する方針策定